

タス レン 横河・リ ライフ向け装置参入 まず横河の共焦点ICM

横河レンタ・リースは28日、ライフサイエンス分野向け装置レンタルに参入すると発表した。第1弾として7月から横河電機の共焦点定量イメージサイトメーター（ICM）「CQ1」の取り扱いを開始する。レンタルサービスを提供により、予算面のハードルを引き下げ、研究開発の加速や新規分野での利用につなげる。価格は上位機種の色位相差ライブ対応モデル（レンズ6種、保守付き、トレーニング付き）が12カ月レンタルで月額90万円から。2018年度までに20台の提供を目指す。

CQ1を含むイメージング装置は創薬・薬理研究、安全・毒性研究などにおける疾患細胞やiPS細胞（人工多能性幹細胞）などの評価に用いる画像の撮像から解析までを自動で行う。利用ニーズは大学・研究機関や医薬、食品、化粧品、化学、バイオ関連企業と広がっている。しかし、装置が高額なため予算確保が難しいほか、新たな用途で利用しにくい面もある。こうした声を受けて、レンタルサービスの提供を開始することにした。

CQ1は、生きた細胞を自動で簡単に3D観察から解析評価までを行うことができるICM。長期のライブ観察に必要な細胞培養に安定した環境を内蔵。高速3次元イメージングでの細胞測定は細胞の面積だけでなく、体積、表面積、細胞の個数、位置、細胞内の微小粒子の位置、蛍光強度などの3次元情報を把握することができる。



レンタルを開始する横河電機のCQ1

レンタルでの取り扱い
は横河レンタ・リースのみで、必要な時に必要な期間利用できるため自由度が高く、公的資金を活用した単年度予算の研究開発プロジェクトにも対応する。横河電機と連携し、横河グループとして解析・保守のサポートを提供する。

イメージング装置の市場規模は年間約50台とみられ、横河電機のCQ1が約7割のシェアを有している。レンタルサービスも提供することで、グループを挙げた装置の普及・利用拡大につなげる。